

平成19年3月23日

## 平成18年度 継続評価書

研究機関 : 株式会社横須賀テレコムリサーチパーク  
YRPユビキタス・ネットワーキング研究所

研究開発課題 : アジア・ユビキタスプラットフォーム技術に関する研究開発

研究開発期間 : 平成 17 ~ 19 年度

代表研究責任者 : 坂村 健

総合評価 : 適

(適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- H19年度は前年度までのプロトコル、システムの設計、試作等の開発成果を基にアジア諸国との連携も含めた実証実験による評価のフェーズに入る。一部開発も継続するが、これらは予定通りの進捗を示すものである。また、H19年度の評価の意義は大きく、計画を継続することが適当と判断される。
- H19年度の計画実施に当たっては、実証実験の効率化、評価意見の十分な集約、成果のオープン化方策など技術開発面以外にも十分配慮することが望まれる。

## (1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価S

### (総論)

計画通りの成果が得られ、非常に進歩的な成果等が得られている。

### (コメント)

- 平成18年度の計画は予定通り進捗する見込みである。特に、UCR プロトコル仕様、コンテキスト記述モデルの確立、プロトタイプシステムの構築など高い技術レベルを要求する開発を成功させている点は高く評価できる。
- 前回の指摘事項についても十分な対応がなされている。
- 他組織によるプロトコル仕様の採用など開発成果の普及に成功している点は評価できる。
- 中国復旦大学に拠点を設け、実証実験を行うなどアジアの1ヶ国との実証実験を行っている。この拠点を今後も活用できる点は評価できる。
- 今後は、開発した技術の適用性を広く確認するため、利用シナリオを充実させ、実証実験確認項目を精査することが必要である。

## (2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

### (総論)

予算計画書等に則り、効率的かつ適正な執行が行われている。

### (コメント)

- 大きな支出項目は、その他の経費(ソフトウェア、配信システム)であり、システム、ソフト開発が主となる研究フェーズを反映している。
- 途中交代を受けて研究者数は多いが、総稼働時間は妥当な値である。
- 開発規模の大きさからみた開発費は妥当であり、他の成果の活用などの工夫もうかがえる。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

#### (総論)

実行可能かつ効率的な計画である。さらに、工程管理などの面で優れた取り組みが認められる。

#### (コメント)

- 技術開発から実証実験に主力が移ってきており、全体の計画を反映している。
- 実証実験の前に予備実験を行うなど実験計画の最適化が工夫されている。
- 仕様の要求充足度に対するチェックを機構的に確保することが好ましい。
- 利用するネットワークインフラの信頼性低下やプライバシー問題など負の側面への対応方針も明確化されたい。
- 評価の期間を十分設けられるよう、開発完了時期に配慮されたい。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

#### (総論)

おおむね、効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。

#### (コメント)

- 消耗品その他の経費(ソフトウェア、システム)が縮小し、労務費が増えている。このことから、開発計画が予算計画に反映されていると言える(全体的な配分は適当である)。
- 外国も含めた実証実験では準備のための稼働が増大しがちであるが、拠点との十分な連携などにより効率的に行えるように十分配慮されたい。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

### (総論)

適切な実施体制が組み立てられており、計画通りの事業進捗が見込まれる。さらに、一定の工夫が認められ、合理化・効率化等が図られていると認められる。

### (コメント)

- 各サブテーマに対して適切な研究要員が配置されているほか、非常勤の研究者を揃えることにより、経済的に体制を確立していることは評価できる。
- 出向元との稼働分担により、本プロジェクト側の経費を必要最小限に抑えていることは評価できる。
- 出向元の都合による要員途中交代に対しては、影響を少なくするよう事前対策を十分立てられたい。